



私の街こまつ



THE KOMATSU CITY COUNCIL NEWS

議会だより

2024

5.1

NO.213

\\ Topic! //

令和6年度 当初予算全会計
1,085億5,460万円を可決

Contents

3月定例会	2	常任委員会 審査報告	18
初日質疑	5	特別委員会 調査報告	21
市政Q&A	6	議決結果	22
予算決算常任委員会総括質疑	16		
撮影 小松大谷高等学校写真部 2年生 木村莉菜さん			



市議会HP



マチイロ

3月定例会

会期〈2月26日～3月22日〉

2月26日 開会

市長提出議案

予算案 19件

条例案 15件

その他議案 6件

初日質疑(5人)

3月4日 代表質問(3人)

一般質問(3人)

5日 一般質問(7人)

6日 一般質問(5人)

7日 各常任委員会(分科会)

8日 各常任委員会(分科会)

11日 特別委員会

14日 予算決算常任委員会

総括質疑

22日 閉会

市長提出追加議案 2件

議員提出議案 5件

※議案等の採決結果(P22参照)

予算案をチェック

市長から提案のあった予算案については、予算決算常任委員会で審査されました。(P16～P19参照)
主な提案内容を紹介します。(P3)

令和6年度当初予算

会 計 名		令 和 6 年 度 当 初 予 算 額	令 和 5 年 度 当 初 予 算 額	伸 率
一 般 会 計		516億5,000万円	477億2,000万円	8.2%
特 別 会 計	国民健康保険事業	89億9,290万円	91億4,100万円	▲ 1.6%
	介護保険事業	104億8,310万円	103億5,200万円	1.3%
	公債管理	66億9,580万円	113億900万円	▲ 40.8%
	産業団地事業	31億6,650万円	14億9,330万円	112.0%
	後期高齢者医療	19億8,200万円	18億3,300万円	8.1%
企 業 会 計	水道事業	39億120万円	33億5,430万円	16.3%
	下水道事業	98億3,240万円	97億6,540万円	0.7%
	病院事業	118億5,070万円	110億5,500万円	7.2%
全会計の合計		1,085億5,460万円	1,060億2,300万円	2.4%

令和5年度3月補正予算

会 計 名	補 正 額
一般会計	12億9,833万円
特別会計	6億374万円
企業会計	4億6,470万円
計	23億6,677万円

一般会計の累計 538億740万円

全会計の累計 1,138億8,128万円

予算案をチェック

自治体ライドシェア運行費



【補正費(R5)】 360万円

【事業費】 4,400万円

【内 容】 タクシー運転手不足を補完し、市民や来訪者、能登半島地震の被災者の移動を確保するため、「小松市ライドシェア」の本格運行を開始します。

小松駅・空港間 自動運転バス運行費



【事業費】 9,800万円

【内 容】 次世代技術を搭載した小松駅・空港間自動運転バスの通年運行が開始し、安定運行の強化や自動運転技術の更なる高度化に取り組みます。

新病院基本構想策定 (病院会計)



【事業費】 1,000万円

【内 容】 新病院建設に向けて基本構想を策定します。南加賀の中核病院として救急・高度医療を強化していきます。

高機能消防指令システム 整備費



【事業費】 2億7,530万円

(令和7年度債務負担) 4億2,000万円

【内 容】 市民の安全・安心を24時間体制で守るため、消防指令システムを更新します。ハイスpek AVM (車両運用端末装置) の搭載等機能をアップさせます。

事業所サロン補助金



【事業費】 600万円

【内 容】 介護予防を目的とした通いの場の更なる充実と多様化を目指し、新たに介護事業所が地域住民の参画を得て運営する「事業所サロン」を支援いたします。

こども預かりサービス ステーション費



小松市
イメージキャラクター
カブッキー

【事業費】 1,600万円

【内 容】 こども園や学童クラブに通う子どもの早朝・夜間の預かり、こども園等へ送迎する「こども預かりサービスステーション」をカブッキーランド内に新設し、働く子育て世代を支援します。

都市計画道路調査費



新今江踏切

【事業費】 1,000万円

【内 容】 新規整備路線として(都)今江三谷線の未整備区間を整備し、外環状道路の道路網を完成させ、市街地周辺の「交通の円滑化」を図ります。

末広野球場改修費



【事業費】 4億1,305万円

【内 容】 末広野球場改修工事に着手し、照明のLED化やスコアボードのフルスクリーン化、内野グラウンドの排水改修等を行います。

松陽中学校整備費



※提案イメージ図

【事業費】 1億8,939万円

【内 容】 普通教室棟の新築及び校舎の大規模改造にむけ、プロポーザル方式に基づく基本設計・実施設計に着手します。市道付替工事等にかかる実施設計や地質調査なども実施します。

条例案等をチェック ☒

市長から提案のあった条例案やその他の議案については、各常任委員会で審議されました。
(P19～P21参照)

人事案件

教育委員会教育長

やまもと たみお
山本 民夫 氏 (矢田野町)

固定資産評価審査委員会委員

かみむら たけし
上村 岳司 氏 (園町)

の任命・選任に同意しました。



議員提出議案をチェック ☒

議員から提出された議案のうち意見書については、可決された意見書を、内閣総理大臣をはじめ、関係機関に送付しました。(賛否はP22参照)

議案第1号 小松市議会委員会条例の一部を改正する条例について

議案第2号 令和6年能登半島地震からの創造的復興に関する決議

議案第3号 令和6年能登半島地震の災害復興支援を求める意見書

議案第4号 保育士の配置基準の見直し及び処遇改善を求める意見書

議案第5号 災害救助法における福祉の位置付けの明確化を求める意見書

本会議の討論

橋本議員から市長提出議案第2号、第7号に対し、反対討論がありました。

吉村議員から請願第1号に対し、反対討論がありました。

吉本議員から請願第1号に対し、賛成討論がありました。

Interview

この度、全国市議会議長会基地協議会の会長を仰せつかることとなりました。これまでの議長や関係各位のご尽力により29年ぶりに小松市が会長職を引き受けることができました。心から感謝申し上げます。私自身これまでも基地周辺対策に取り組んできましたが、これからはさらに全国の在日米軍を含む陸海空の防衛施設が所在する自治体の議会の意見を取りまとめ、基地交付金の増額確保やそれぞれの地域の要望を防衛省や関係機関に伝える要職となります。精一杯努めたいと思いますので、今後よろしくお願いいたします。



第87回全国市議会議長会基地協議会総会

開催日

令和6年1月31日(水)

全国市議会議長会基地協議会の会長に小松市議会議長新田寛之が選出されました。



本会議初日質疑

議案第1号 令和5年度小松市一般会計補正予算(第9号)
補正額 360万円

会 派 自 民



高野哲郎 委員



動画でチェック

◆自治体ライドシェア運行費について

Q 昨年12月20日の国交省のライドシェアに関する発表から本会議初日の議案提出となった経緯経過の説明を。

A 国とも何度も協議を重ね準備が整い、北陸新幹線開業による来訪者の増加、能登半島地震による避難者の移動の不便解消のため初日議決とした。

Q 予算案360万円の内訳は。

A アプリや運行管理等を委託する費用。

Q 本予算も含めると約4,800万円だが、来年度以降のランニングコストは。

A アプリ改修費は減額できると考えている。

Q 地域の交通関係の皆様と、導入についての合意形成はできているのか。

A 運行時間等についてはタクシー協会との合意、導入については小松市地域公共交通活性化協議会の承認を得たもの。

Q ドライバーの資格制限等は。

A 年齢要件、運転免許要件、アプリを活用できることなど。

Q 大臣認定講習の内容は。

A 講義2時間と技能実習。

Q ドライバーの安全確保、また報酬は。

A ドライブレコーダーを設置。報酬は利用料の7割。

Q 事故の際の保険の対応は。

A ドライバーが加入する自賠責保険、任意保険(対人、対物無制限)を適用。市の責任として、自家用有償旅客運送保険に加入。

Q 一般車とタクシー会社の車とでは車検のレベルが違ふと考えるが。

A 必要であれば、国等への提言、要望にタクシー業者とともに活動できればと考える。

Q パブリックテクノロジーズ社のアプリを採用した経緯は。

A アプリ改修を早急に整備できること、今後様々な公共交通の再編に向けて対応できることにより採用。

Q 地域交通の確保について市長の考えは。

A バス、タクシー事業者などプロで担っていただく部分と、それを補完するものをうまく組み合わせながらベストマッチを目指していきたい。

小 松 志 士 の 会



濱口淳也 委員



動画でチェック

◆(仮称)小松市版自治体ライドシェアについて

Q 被災者の方の利用について。

A 2月29日から3月2日までの3日間、小松市内での運行を17時から24時の間、無料とするものである。



木村賢治 委員



動画でチェック

◆(仮称)小松市版自治体ライドシェアについて

Q ライドシェアを成功させるには、タクシー業界とよく意見を交換し、共存していくこと

が不可欠だと思うがどうか。

A 市はタクシー事業者の意向を踏まえ共存共栄を図っていく。多様化する移動ニーズに対応可能な新たな地域公共交通体系を構築していきたい。

自 民 党 こ ま つ



深田博智 委員



動画でチェック

◆(仮称)小松市版自治体ライドシェアについて

Q 小松市の公共交通の現状は。

A バスは北鉄加賀バス、北鉄白山バスが運行する生活路線バス13路線、それと市のコミュニティバスとして市内循環線、木場潟線がある。利用者数は、令和4年度で年間43万人余り。5年前との比較では、コロナ禍の最中であつたが、14万人が減少した。一方タクシーは、主に小松近辺の南加賀エリアでタクシー事業者は7社。台数は非公表という部分もあるが、南加賀エリアで100台から120台を推計している。全国的に見ても、コロナ禍前よりタクシー台数は約20%減少しているという現状。

無 会 派



橋本米子 委員



動画でチェック

◆自治体ライドシェア運行費について

Q 安全確保策が遠隔点呼のビデオ通話で、対面での健康状態が確保されない問題がある。

A ドライバーと直接対話できる非対面点呼も認められている。

Q 事故処理体制の責任と保証が運転者個人にならないか。

A 事業主体は市で、最終責任は市が負う。自家用有償運送保険に加入して対応に当たる。



会派自民
おもて やすじ
表 靖二 議員

代表質問 一括質問

千松閣の 代替施設について



動画で
チェック

◆市の財政について

Q 収支の概要及び経常収支比率について。

A 歳入は市税全体では交付金を含めると169億5千万円、歳出では人件費約56億円、扶助費121億円余、物件費77億円余、補助費等では62億円余を見込んでいる。収支全体として一般会計では516億5千万円、全会計では1,085億5千万円を計上している。経常収支比率は、令和4年度決算では91.3%、令和6年度当初予算時点で試算した場合は、91%から95%程度の見込み。

Q 公会計化された学校給食費について、完全無償化されているが、経常費とされているか。

A 毎年支出される経費であり、経常費に分類される。

Q 近年の公共投資の推移について。

A ここ10年程度の災害復旧費を除く投資的経費は、概ね100億円程度となっている。

Q 市の貯金とも言える財政調整基金残高について、近隣市と対比しつつ問う。

A 令和4年度末における残高は、金沢市を除く近隣市で23億円から35億円程度と本市の15.5億に比べて大きくなっているが、本市の基金残高は他市と比較すると少なく、決して余裕のある財政状況とは言えない。

◆市民病院の夜間保育について

Q 週2回実施、1名から2名の利用、年間1,200万円の予算とあるが、より実施日を増してはどうか。

A 病院の利用者アンケートや利用実績から週2日の開園でニーズを満たしていると考え。医療機関などに対して、実際に外向いて丁寧に周知するなど、利用促進につなげていきたい。

Q 病院会計のみに頼らず、市の行政の主要な子育て支援策として充実してはどうか。

A 状況を見極めながら、医療だけでなく福祉のニーズも的確に捉え、柔軟に検討していきたい。

◆能登半島地震について

Q 液状化現象とその対策について。

A 浜田町や川辺町などにおいて、液状化と見られる被災箇所については、地盤改良などの液状化対策工事を検討している。

◆老人福祉センター千松閣について

Q 今年度末をもって廃止予定の千松閣につき、代替施設の建設を求める請願が市老人クラブ連合会から出されているが、見解を問う。

A 家庭風呂の普及率が100%近くまで高まり、かつ類似の機能を持つ公共・民間施設が複数立地していること、さらに利用者の減少や固定化など課題等を踏まえると、多額の費用をかけて新たに代替施設を整備するべきではないと考える。

◆小松サン・アビリティーズの改修について

Q 令和6年度には、大規模改修が予定されている。おもちゃ図書館等、既存の利用者への対応について問う。

A 工事期間の周知を行い、代替利用施設の確保をお願いする。おもちゃ図書館については、備品を近隣の別施設へ移動し、工事期間中でも継続して利用できるように協議・調整を行っている。





小松志士の会
みやにし けんきち
宮西 健吉 議員

代表質問 一括質問

積極投資で好循環



動画で
チェック

◆令和6年度予算編成について

Q 当初予算で初めて500億円を超える。積極投資で好循環を目指す目的、目標は。

A 2040年ビジョンに描いた将来像の実現に向けた新しいまちづくりに挑戦する。

◆教育問題について

Q 不登校と教職員の資質について。

A 不登校の背景は多様であることが分かっている。教師は一人一人の子供たちを見取る力を持たなければならない。

Q 全国で29万人、本市は何人か。

A 全国と同様の割合で、小中あわせて千人あたり31.7人。

Q 不登校生と教職員の因果関係は。

A 不登校児童生徒の悩みや困り感の原因は多岐にわたり複雑化しており、教職員研修やチーム担任制での対応に期待。

◆物流2024年問題について

Q 働き方改革関連法とは。

A 労働者個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方の実現を目指し制定されたもの。

Q 地域交通推進費について今回、自動運転バスと自治体ライドシェアで2億8,940万円。本市の地域交通をどう描かれているのか。

A バス、タクシー、自治体ライドシェアなど様々な交通モードを組み合わせ、市民や来訪者にとって今よりも便利な移動手段の構築に向けて、経費にも配慮しながら取り組んでいく。

◆金額で見る本市と小松基地との関係について

Q 防衛省の補助金、交付金は。

A 令和4年度で13億3千万円余となっている。

Q 小松基地発注の物品、役務について市長の見解は。

A できるだけ地元調達を要望していきたい。

◆公共施設マネジメントについて

Q 私は千松閣の新しい代替施設設置請願には反対である。はつらつセンター、せせらぎの郷で十分である。市長の見解は。

A 施設の再整備は行わず、類似の公共施設や市内各地の民間施設の活用シフトしていただきたい。

◆新病院建設に向けた基本構想と未来型図書館について

Q LGBT対応の見解は。

A 性別、年齢、国籍、障害、いろんな分野を包含して考えていきたい。

Q 日本近郊には権威主義国家北朝鮮、ロシア、中国が存在する。地下シェルターについての見解は。

A 必要な面積を確保することは非常に難しい。必要性について今後検討していく。

◆花坂地区産業団地について

Q 整備概要は。

A 正蓮寺産業団地の南西側に位置し、建設発生残土の埋立てと山林整備により約15ヘクタールを確保する。

Q 進捗状況は。

A 約4割の地権者から用地を取得している。

◆石橋川導水路、遊水地整備について

Q 整備の概要は。

A 第一段階として約4.3ヘクタールの遊水地を整備し、約1万7千立方メートルの雨水を貯留する。

Q 最終的には何立米か。

A 将来的には約6万6千立方メートルの雨水を貯留する。



自民党こまつ
かわさき じゅんじ
川崎 順次 議員

代表質問 一括質問

千松閣など老朽化した
施設に対し、将来の
負担にならない対応を!!



動画で
チェック

◆能登半島地震について

Q 本市の被災状況、対応は。

A 住家被害は2千件を超え、インフラ、公共施設等の広範囲にわたり被害が発生。復旧復興に向けて取組を進めている。

Q 能登地方の災害に遭われた方々の支援は。

A 人的・物的支援、広域避難者の受入れなど、引き続き必要な支援を行っていく。

Q 国・県からの支援金の状況は。

A 被災者生活再建支援金最大300万円等が支給される。

Q 本市の地震からの力強い一歩をどう踏み出すか。

A 災害時の様々な備え等について、検証と拡充が必要と実感している。部長級ポストを新たに設置し、市組織体制を強化したい。

◆令和6年度予算について

Q 2040年ビジョン初年度実現に向けての取組は。国際空港と新幹線は全国でも小松市だけではないか。願ってもない飛躍のチャンス。

A 対話とコミュニケーション、新しいまちづくりへの挑戦を方針に、政策立案や予算編成に真正面から向き合っている。

Q 都市計画道路整備も必要。外環状道路今江三谷線の未整備区間も整備が重要。

A 令和6年度予算に調査費を計上。関係機関との協議、調整が整えば、令和7年度から本格的に事業着手したい。

Q 城南村松線の四車線化もスピード感をもって進めよ。

A 市として、事業が円滑に進むよう地元調整など県と連携し、早期の実現に向けて取り組んでいきたい。

Q 好循環を加速させるため企業誘致、新たな産業団地の必要性。若者の小松からの流出を防ぐ仕掛けが大事。

A 産業創生、企業誘致により、若い世代が地域に定着することによって、若者が楽しめるエンターテインメント等の立地が促進されるよう、まちの好循環につなげていきたい。

Q 今年度、高齢者に対しどんな対策を講じていくか。

A 市民病院の新病院基本構想の策定、事業所サロンの開設やeスポーツ促進など、高齢者の命を守り、健康で暮らし続けられるよう政策立案に努めている。

Q 先送り体質からの脱却、将来に必要な行政需要に対する取組は。

A 積年の課題に真正面から取り組むことにより、安定的な行財政運営に取り組んでいきたい。

◆公共施設マネジメントについて

Q 6割以上が30年以上経過、更新時期を一斉に迎える。急速な人口減少による財政の負担増、医療費介護費等による影響が考えられ、利用者ニーズなども検討が必要。次世代に重い負担になる。自治体経営を総合的にマネジメントしていく必要がある。

A 本当に必要な施設なのか、より効率的な整備や運営ができないかなど、自治体経営の視点から熟慮し、よりよい資産として次世代につなげていかなければならない。

◆J-クレジットの活用

Q CO2削減に向けての本市の取組は。

A 憩いの森等で市と民間企業が連携して行っている民有林の森林整備活動等、認証取得に向け積極的に取り組んでいきたい。

◆蛍の里づくりについて

Q 小学生の子供たちの自然環境への取組は。昭和40年代位から蛍の群舞が見られなくなった。蛍が舞う風景を復活させては。串川公園でぜひ子供たちのために!

A SDGsの観点からも、串川の蛍の里づくりはとても素晴らしい題材であると思う。

災害を経て、
今すべきこと



よしば ぶんご
吉柴 文悟
議員

一括質問



動画でチェック

◆災害時の情報共有手法

Q 緊急時に災害情報を取得しやすくするため、公式LINEやアプリを利用しているが、こうした配信ツールを広く周知し、誰もがアクセスできるように誘導すべきだと考えるが、市が運営する配信アプリについて災害時にどのように利用しているか。

A こまつ防災アプリ、公式LINE、SNSでの情報提供について、緊急地震速報や津波警報などはJアラート等と連携し自動配信を行っている。災害情報の公開について、配信システムから配信された情報は「小松市住民向け情報配信」にバックナンバーとして自動保存され、現在、こまつ防災アプリでも閲覧可能である。

Q 小松市のホームページにある指定緊急避難場所一覧オープンデータは、ダウンロードして閲覧することができるが、避難者が欲しい情報に整理されておらず、緊急時に不便を感じる。今後、地区の住民の安心・安全のための取組の一つとして、防災ウェブページを持つように働きかけては。

A 防災マップや防災タイムラインから成る地区防災計画を作成するよう町内会に働きかけを行っており、避難先でも見ることができるよう、結ネットアプリの活用など、地域での仕組みづくりについても併せて働きかけていきたい。

◆防災の為にデジタル化

Q 防災行政無線について、災害などの緊急時に発信しやすくするための文字入力への対応や、音声を取り取りやすくするための合成音声利用など、機能向上を検討しては。

A 現在の小松市の設備では、町内会などで使用する場合、電話により遠隔で録音することが可能だが、クラウド上のシステムからテキスト入力し、自動音声で読み上げる機能などは有していない。今後は、設備の更新の機会を捉え、利便性の向上が図れるよう研究を行っていきたい。

中山間地域における
防災対策について



ふかた ひろとも
深田 博智
議員

一括質問



動画でチェック

◆中山間地域における防災対策について

Q 交通インフラ整備は。

A 中山間地域において、一般的に市街地と比べて道路インフラがやはり脆弱な場合が多く、災害発生時には孤立状態に陥る危険があるということが、このたびの能登半島地震における大きな課題として、今のしかかっていると思う。こうした中山間地域の交通インフラの確保については、道路パトロールの実施や冬期間の迅速な除雪対応、また沿線の地権者の協力の下、倒木予防のための適切な伐採等、既存道路を有効に活用するための道路の適切な維持管理が重要だと考えている。今後とも石川県と情報共有を行い、連携しながら、また、地元町内会や沿線住民と協力して、中山間地域における安全で安心な交通インフラの確保に努めていく。

Q 生活インフラ(上水道)整備は。

A 今回の能登半島地震による被害状況は、水道本管の漏水1件である。上水道は

手取川地下水を水源とする上清水水系及び川北系の2水源と、手取川ダムを水源とする県水の計3水源から成っている。その水源からは一方向だけで、その地域はその水源のものしか使えないというのではなくて、3つの水源からしっかりとバックアップ体制も含めて相互に融通が可能な仕組みを有している。

Q 孤立状態の軽減、解消対策は。

A 小松市では令和5年度、北陸電力送配電株式会社と協議しながら、岩上町から西俣町への市道西俣線沿い、赤瀬町から大杉町への県道大杉長谷線沿い、沢町から松岡町への県道布橋出合線の計3か所について、支障木を伐採する計画としている。令和6年度より森林環境譲与税を活用して、市道西俣線沿いの支障木を伐採する予定。孤立集落の解消を図るため、引き続き電気事業者等のインフラ施設管理者と連携協議し、計画的な支障木の伐採を進めていく。

業務継続計画を活かし、指定福祉避難所を増やす
ひきこもり相談支援事業、新設する基幹相談支援センターについて



さいとう かずみ
斎藤 和美
議員

一括質問



動画でチェック

◆障がい者福祉施設で策定している業務継続計画を活かす

Q 義務化となる業務継続計画を活かし、指定福祉避難所を増やしてはどうか。

A 今回義務化された施設の業務継続計画の策定を通じて、指定福祉避難所の運営体制の確立につなげたい。また、一般の福祉避難所の運営のあり方も、関係機関と協議検討を進める。

Q 安全に避難するために、災害安心シートの活用を早急に進めて欲しい。

A 障がいの有無にかかわらず、高齢者や配慮が必要な方が気軽に利用できるように、窓口での配布やホームページからもダウンロードできるようにし、災害時の避難行動の支援に役立てていきたい。

◆18歳以上のひきこもり相談支援事業について

Q 当事者の居場所づくりや家族への心のケアについて。

A 事業の運営を市内の社会福祉法人に委託する。法人の社会資源を活用し安全・

安心に過ごすことができる居場所を提供していく。また、コーディネーターが、家族の状況や、その思い等の把握に努め、家族に寄り添いながら、ひきこもり本人とどのように向き合っていけばいいのかを一緒に考えていくことを第一としたい。

Q 本市としての具体的な施策や啓発活動について。

A 加賀ひきこもり地域支援センターや関係機関の意見を参考にし、当事者が相談に来やすい効果的な周知方法を検討していく。

◆相談支援専門員による基幹相談支援センター設置について

Q サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者等の資格を持つ方を福祉コンシェルジュとして登用することを検討いただきたい。

A 障害相談、支援専門員の育成だけでなく、他の福祉支援事業所との連携強化が求められており、今後、官民協働で地域福祉サービスの向上を図っていきたい。

◆能登半島地震での市の対応は

Q 避難所の開設状況や運営状況は。

A 指定避難所など78か所を開設、施設管理者、地域住民、防災士などと協力して、毛布の配布や要支援者などの対応を行った。

Q 避難所の冷暖房の設置状況や整備計画は。

A 指定避難所67か所中、冷暖房は5か所、暖房のみは11か所である。小中学校の体育館については、国への補助要望を行っている。

Q 避難所運営で防災士との連携は。

A 専門的な知識を有する防災士と避難所運営協議会との連携が重要。

Q 女性防災士を拡大する計画は。

A 女性が参画することで、衛生面や安全面の配慮とともに、育児、介護の経験を生かした運営支援につなげていく。

◆地域協議会について

Q 地域協議会がいくつあり、期待するものは何か。

A 市内9団体となっており、主体的かつ効率的な課題解決に向けた活動を実施することで持続可能な地域づくりに期待する。

Q 町内会連合会に一部補助対象が拡大されているが来年度は。

A 新年度からは補助メニューの区分を廃止し、長期ビジョンを策定する地域には、今回の制度改正において補助上限を拡充し支援する。

Q 安否確認などデジタル化の推進が必要では。

A 地域にとって必要という十分な話合いと理解が得られれば、重要な課題と考える。

◆高齢者の免許返納について

Q 更なる支援が必要では。

A 特典として7種類の支援品の中から一つ選んでいただくなど制度の充実を図っている。

Q 自主返納の啓発活動は。

A 警察や関係団体と連携し、免許返納の啓発に協力する。

◆地域建設業の支援について

Q 能登半島地震に派遣している建設会社の工期延長は。

A 工期変更など受注者と協議を行い柔軟に対応している。

Q 投資的経費の増額はるか。

A 道路や橋梁、上下水道など社会インフラ整備等に必要な予算を確保している。

令和6年の能登半島地震の避難所運営や防災士との連携、高齢者の運転免許自主返納の更なる行政支援、などを聞く



むらなか ひろし
村中 洋
議員

一括質問



動画でチェック

魅力づくり
2040年ビジョンと



なかにし はじめ
中西 肇
議員

一括質問



動画でチェック

◆2040年ビジョンについて

Q 2040年ビジョンの具現化に向けた取組は。

A 2040年ビジョン具現化のための総合戦略を策定する。全校下でビジョンの説明と意見交換を行い、まちづくりに反映したい。また、国、県、民間事業者との連携を進め、先駆的事業の実施や投資を呼び込み「小松を明るく、にぎやかに！」の実現を目指す。

◆下水道事業について

Q 第三期下水道包括的業務委託では、どのように改善されるのか。

A 料金徴収・窓口業務等を追加。事業者の技術力や企画力が発揮できるよう工夫する。

◆小松市の魅力づくりについて

Q 加賀立国1200年祭とこまつ歴史回廊調査事業について。

A 小松のアイデンティティの一つとして、加賀国府を再発見できたことが、加賀立国1200年祭の大きな成果である。今後、

加賀国府関連調査の継続、白山信仰関連遺跡として那谷寺遺跡の調査、能美市との連携による古墳のPRに取り組み、歴史文化資源として活用や継承を図る。

◆市有地の有効活用について

Q 本江町住宅や旧小野保育所跡等市有地の有効活用の考え方は。

A 本江町の市営住宅を解体し、子育て世帯向け賃貸住宅や宅地分譲を進め、「子育てするならダントツ小松」の象徴的な整備を図る。旧小野保育所跡地は、定住促進策として宅地分譲等、地域の活性化に資する方向で活用を検討したい。

◆人材育成について

Q 人材育成・人材確保について取組の現状及び今後の方針は。

A 人材育成、人材確保、職場環境改善等、必要な対応をしている。デジタル人材については、資格取得の支援等のほか、民間企業との人事交流も検討している。国の指針見直しを受け、小松市人材育成基本方針の見直しに着手する。

インバウンドの拡大に向けて
レール&フライトを活かした



なんとう よういち
南藤 陽一
議員

一括質問



動画でチェック

◆観光者に向けたナイトタイムエコノミーの推進について

Q 令和5年度に、北陸新幹線小松駅開業に向けて行ったナイトタイムエコノミー事業の評価と、それらを踏まえての開業後の取組は。

A ラグビーワールドカップパブリックビューイングや駅ビア小松等、夜の誘客につながるイベントが開催され、まちのにぎわい創出、開業への機運醸成の機会となった。イベント企画団体の機動力はすばらしく、市はその取組を積極的に応援していきたい。

Q ナイトタイムエコノミーの推進にあたっては、官と民の役割を明確に把握して連携を図る必要があると考える。本市主導でナイトタイムエコノミー推進チームのような組織を立ち上げては。

A 官民連携の流れはこのまま継続させたいと考えている。

Q 震災でキャンセルの被害を受けた飲食店向けの支援策は。

A 売上向上への取組に対する国・県の支援に、本市独自の施策として上乗せ支援を行い、導入を後押しする。また、プレミ

アム率40%とした商品券事業の実施を予定。

◆南部地区におけるナイトタイムエコノミーの推進について

Q 後継者問題などで閉店が相次ぐ栗津駅周辺での新規出店を後押しする施策を検討できないか。

A 空き店舗活用型飲食店等創業支援補助金の周知に努め、創業の後押しを進めていきたい。

Q 被災者の受け入れ延長を決断した栗津温泉で、被災者も楽しめ、誘客にもつながるイベントを開催してはどうか。

A 令和6年度に、南部地域において国の補助金を活用した大型イベントが検討されており、市も連携協力したい。

Q 観光資源が集約する、南部地域におけるナイトタイムエコノミーの推進について、本市の想い・考え方は。

A ライドシェアの推進、情報発信等の面で民間事業者の方を応援することで、まちの持続的ににぎわい創出につなげていきたい。

能登半島地震からの教訓を受けて、災害に強いまちづくりについて



はしもと よねこ
橋本 米子
議員

一括質問



動画でチェック

◆避難生活改善、被災者支援について

Q 市の避難所の種類と設置数は。

A 指定緊急避難場所28、指定避難所67、指定福祉避難所2、福祉避難所14、自主避難所5。

Q 指定避難所の感染症対策に必要な物資・資材などの備蓄量は。

A 間仕切り・プライバシーートルーム

約200、段ボールベッド約150、携帯トイレ約4万5,000を備蓄。

Q 指定避難所の現在の空調整備設置箇所と比率について。

A 市民センター等5か所で、設置率は7.5%。

Q 学校体育館に空調整備が必要。

A 国への補助要望を行っており、環境整備を進めていきたい。

Q 市の住宅の耐震化率はどうか。

A 令和2年度約84%で、県内平均の82%を上回っている。

Q 耐震補助拡充で目標率は。



指定避難所には感染症対策が必要です。

A 令和7年度耐震化率90%を目指してまいりたい。

Q 上水道管路の耐震化の現状は。

A 全体管路延長のうち、レベル1（震度5強から6弱相当）が約94%、基幹管路延長のうち、レベル2（震度6強から7相当）が約32%。

Q 基幹管路の耐震化計画は。

A 丸の内配水池から市民病院へのルート等、順次計画的な耐震化向上に努めていく。

Q 公共下水道の耐震化の現状と今後の取組について。

A 重要な幹線のうち約85%が耐震性能確保。新設管路は耐震管での整備を進めている。

◆敬老金の支給について

Q 今回の敬老金改定内容が99歳の5万円と101歳以上の3万円が削減されている。

A 対象年齢を見直し、88歳、100歳での支給とする。

Q 他の補助・助成等が、前進面の中でもあり、削減内容の中止を求めたい。

A 敬老金制度は残しつつ、将来を見据えた持続可能な制度となるよう見直しを図った。

震災対応・避難所・通学路・ハザードマップなど



きむら けんじ
木村 賢治
議員

一問一答



動画でチェック

◆こども園だいいちの移転

Q 候補地周辺の内水対策の必要性から調整池の設置は可能か。

A 周辺に浸水被害が発生したことを承知している。雨水管理総合計画で計画的に進めていきたい。

Q 園を地域の一時避難所として利用することはできるか。

A セーフティーネットとしての役割と地域から求められる機能の両立が可能であるか十分検討する。

◆震災対応・避難所の鍵について

Q これまでお願いしてきた避難所のデジタルキー導入ありがとうございます。これを機に避難所運営マニュアルの鍵に関する部分の更新を。

A 暗証番号で解錠できる体制を構築し、マニュアルも更新する。

Q 津波警報で市内に混乱が見られた。津波ハザードマップの更新、再配布による周知が必要。

A 更新し、5月に全戸配布する。

Q 市役所が被災した場合の予備電源、衛星電話・通信の導入、AIによる情報収集などの防災の先端技術導入を提案する。

A 総合的に検討を行っていきたい。

◆震災後の通学路の安全対策

Q 市教委とPTAで協力して対策に当たる事を提案する。

A 市P連及び各学校PTA役員と情報共有し、連携しながら児童生徒の安全確保に努める。

◆第一コミセンの周辺道路整備

Q 周辺は歩車分離の無い通学路に囲まれている。国道からの最短経路は町道であり、ボランティアセンターにもなる施設としては、周辺整備に疑問が残るが。

A 道路環境の改善について研究していきたい。

◆千松閣の廃止について

Q 私自身、高齢者の皆様の新しい憩いの場を創出することに取り組みたい。市は憩いの場を増やすと明言したが、介護保険事業費を増額し、その中で憩いの場を増やすのか。

A 団塊の世代が85歳を迎える2040年へ向けて様々な事業を計画している。

稚松小と部活動地域移行
と地域包括ケアと九龍橋



はまぐち じゅんや
濱口 淳也
議員

一問一答



動画でチェック

◆稚松小学校の整備について

Q 令和5年度の調査費は。

A 今年度、総合調査を実施し、結果を踏まえて、実現可能なモデルプランを複数案取りまとめる。

Q 令和6年度の進め方は。

A 令和6年度は、モデルプランについて詳細な検証を進めた上で、地域の皆さんと共有していく。

◆中学校の部活動地域移行

Q 令和5年度、小松市内中学校運動部の休日の部活動について。

A 剣道とハンドボールの2種目をモデル事業として先行実施、実践検証を行っている。また、これらを参考に野球、バスケットボール、陸上競技など試行的に取組を始めている。

Q 今後の取組について。

A スポーツに親しむ機会は様々である。部活動の地域移行を通じて生徒が様々な運動に親しむ機会となることを期待してい

る。今ある課題の改善を図り、引き続き体制整備に努めていきたい。

◆地域ぐるみで介護予防自立支援

Q 地域包括ケアの現状は。

A 各町、地域において、いきいきサロンなどで健康増進、介護予防の体操のほか、交流会や清掃活動、花壇整備などのボランティア活動も活発に行われている。

これらは、隣人との見守り合い、社会参加、地域貢献につながり、住民自ら支え合う地域包括ケアの一助になっていると考えている。

◆地震で被害を受けた九龍橋川

Q 九龍橋川の整備について。

A 今回の被災箇所は、小松市内でもかなり大規模な災害であり、複数のインフラ施設があることから、3事業（九龍橋川排水路の護岸工事、下水道管路の損傷の確認、道路復旧工事）について、工程調整をしっかりと図り、周辺の住民の御理解をいただきながら、円滑な復旧工事に努めていきたい。

能登半島地震の被害状況と
地域医療の充実に向けて



おかやま あきひろ
岡山 晃宏
議員

一問一答



動画でチェック

◆博物館、美術館、錦窯展示館の被害について

Q 確認されている建物の被害は。

A 美術館関係の被害はなく、錦窯展示館は一部被害があったが修繕済みで、博物館は地盤沈下等の被害があり利用を停止している。

Q 展示物、所蔵品などの被害は。

A 展示物のごく一部に被害があったが修復し対応している。

Q 本市が所蔵する貴重な所蔵品をデジタルコンテンツ化し教育的な資料、観光政策に活用しては。

A 地域文化財の保存・活用の一つとして資料のデジタル化を推進していきたい。

◆公会堂の被害について

Q 確認されている建物の被害は。

A 5cmの地盤沈下や液状化現象等、重大な被害が確認された。

Q 予約済みの団体等の状況は。

A 指定管理者の小松市まちづくり市民財団から施設利用の停止の連絡を行った。

Q 利用増が見込まれる市民センターの駐車場不足解消について。

A 会議室やホールの利用を制限する等、予約時に調整を行っている。駐車スペースの課題も含めて施設全体の効率的、効果的な運用を検討する。

◆市民病院のIT化について

Q 現在の取組について。

A 電子カルテやAI問診を導入し、診療情報^{アイディーリンク}を共有するIDLinkに市内医療機関の約59%が参加している。

◆通院弱者への取組について

Q 交通手段のない高齢者が身近に診療できる公民館等を利用したオンライン診療を取り入れてはどうか。

A 地元医師会などと連携して地域医療に与える影響や課題等の整理を行っている。IT化の取組を積極的に進めている市民病院を含め、本市全体の地域医療の充実に向けて協議を進めていく。

震災時の水源確保に
井戸の活用を



きのした ひろゆき
木下 裕介
議員

一問一答



動画でチェック

◆震災時の水源確保について

- Q** 災害用井戸の導入を。
A 災害時サポート事業所の協力項目に井戸水の提供を追加したい。

◆市民病院について

- Q** 当初予算でハラスメント対策と人事評価制度の見直しを外部委託する事業が示された。それぞれ外部委託する理由は。
A ハラスメント対策は多種多様なケースに公平公正に対応するため。人事評価制度は専門家の知見を通して、働きがいのある職場をつくるため。
Q 新設するハラスメントの外部相談窓口では、どのような専門性を有した方が対応するのか。
A 外部の臨床心理士や産業カウンセラーなどに対応していただく。
Q 相談しやすい環境を整える上で窓口の受け付け方法、対応時間は。
A メール等による24時間の受付、電話では平日や土日、祝日、夜間も対応できるものにしたい。
Q 窓口の運用はいつからか。
A 新年度早々に開始したい。

- Q** 窓口設置をどう周知するのか。
A 院内のメールで定期的に通知するほか、チラシ、案内文で確実に全職員に周知する。
Q 相談後の流れはどうなるのか。
A 外部による調査結果を基に、病院の苦情処理委員会でハラスメントの認否を行う。
Q 新人事評価制度の実施時期は。
A 十分に検討した上で民間委託を行い、速やかな実行を目指す。

◆小松市ライドシェア

- Q** 被災者支援として市は2月末に無料でライドシェアを実施した。再度行っはどうか。
A 運行上の課題や被災者の生活サイクルを踏まえ検討していきたい。

◆市犯罪被害者等支援条例

- Q** 具体的な市の支援は何か。
A 見舞金の支給や相談に対して必要なサービスにつながるよう関係機関と連絡調整を行う。
Q 転居費用を助成してはどうか。
A 今後柔軟に検討していきたい。

市民病院の救急対応と新幹線
開業後の観光施策について



よしむら のりあき
吉村 範明
議員

一問一答



動画でチェック

◆市民病院の救急の電話対応について

- Q** 電話対応及び問診は誰が行うのか。
A 電話交換から救急医療センターの看護師へつなぎ、患者の電話対応は看護師が行っている。救急車の受入れは救急医療センターの看護師が直接電話を受けている。問診は、救急医療センターの看護師が行っている。
Q 待ち時間の告知及び診察不可の場合の対応は。
A 目安の待ち時間を看護師から患者へお知らせしている。診察不可の場合は、他の医療機関を案内し、かかりつけ医での受診が可能であればお願いしている。

◆救急外来の対応について

- Q** 待合室は。
A 通常、救急医療センターの待合で待つが、発熱者は駐車場で待機し、看護師がお迎えに出向く。
Q 駐車場で待っている患者さんへの連絡手段は。
A 看護師から電話連絡している。
Q 南加賀急病センターとのすみ分けは。
A 南加賀急病センターは、小児科と内科で夜間の急な発熱や腹痛等の症状の方が対象。南加賀救急医療センターは全科対象

で脳疾患、心疾患、外傷等、緊急に診察が必要な方が対象。

◆那谷寺の調査について

- Q** 調査の目的及び調査内容は。
A 文化資源の新たな価値付けと磨き上げを目的とし、建造物及び名勝、美術工芸品や古文書、那谷寺遺跡を調査している。
Q 今後の計画は。
A 令和12年を第一目標年と定め進めていく。

◆花山法皇の菩提所について

- Q** 大河ドラマを期にPRを。
A 那谷地域全体を広く発信することが望まれる。まずは那谷寺の活用推進から取り組みたい。

◆これからの観光ビジョンについて

- Q** 観光ビジョンと小松市への誘客の考え方は。
A 「ここに行きたい型観光」から、「あの人に会いたい型交流」へとシフトする。
Q 実施に向けた市長の方針は。
A 4つの基本方針により小松の魅力を「もっと深く、おもしろく」していく。

誰もが暮らし続けられる生涯安心のこまつ



うめだ としかず
梅田 利和
議員

一問一答



動画でチェック

◆老朽化した市民病院本館の建て替えに向けた新病院基本構想の策定

Q 現状立地における水害対策について。

A 洪水ハザードマップでは小松市街地全域が浸水し、市民病院においても浸水区域内となるため、水防タイムラインに基づき構内の浸水を防止するため止水板を設置し、病院の機能を維持する。周辺道路の状況や内水対策に取り組んでいる関係部署と連携しながら、安全・安心な医療施設となるよう基本構想を策定していく。

Q 産学官による研究開発や研修機能の整備について。

A 2040年ビジョンにおいて市民病院周辺エリアをウェルネスエリアとしている。このビジョンの下、公立小松大学に隣接した立地環境を生かして、産学官が連携し、新たな医療分野における先端技術の研究開発や教育、研修などができる環境や施設、設備などについて、基本構想策定の過程で検討していく。

◆民間活力を生かした、市営住宅跡地の新たな活用に向けて

Q PFI手法も視野に入れた活用策について。

A 民間事業者の技術力、ノウハウを活用したPFI事業により、既存住宅の解体、子育て世帯向け市営戸建ての賃貸住宅整備、分譲宅地の3つの事業を総合的に行うことを検討する。

Q 子育て世代向け市営戸建て賃貸住宅の整備について。

A 子育て世帯を後押しする充実した居住環境を図る。市街化調整区域では、民間事業者が新たに賃貸住宅の建設が出来ないことから、公共が主体となり整備を行う。市が戸建て賃貸住宅を整備することで、集合住宅隣戸間での子どもの声や足音などの生活音に対する問題も解消され、子育て世帯ののびのびと安心して子育てできる戸建て住宅の整備を検討する。

誰もが健康で元気なまち・小松を目指して



よしもと しんたろう
吉本 慎太郎
議員

一問一答



動画でチェック

◆带状疱疹ワクチン接種について

Q 今回、新たに助成される内容は。

A 主に50歳以上が対象で、医師の判断により2種類のワクチンから接種できる。

Q 対象となる50歳以上の方々への幅広い広報と周知を。

A 広報こまつ、市ホームページ、市内医療機関でのポスター掲示などで周知する。

Q より効果が高い不活化ワクチンに対してさらなる助成を。

A 令和6年度についてはこの金額でやっていきたい。

◆事業所サロンについて

Q 介護事業所が新たに「事業所サロン」を行う意義とは。

A 各事業所の企画により、多種多様な活動が展開できるため。

Q 従来のいきいきサロンや、ゆったりサロンとのすみ分け、融合は。

A 健康上の理由により従来のサロンに通えなくなった方でも利用でき、従来の

サロンとのすみ分けは可能。

Q 震災避難者の参加を促しては。

A 個別に健康状態を見て必要なサービスにつなげていきたい。

◆千松閣閉館に伴う高齢者福祉施設の在り方について

Q 元気な高齢者の生きがいの場創出のためにも、閉館が決まった千松閣の代替「施設」及び「機能」の確保が必要ではないか。

A 時代とともに生活の質、価値観や行動は変わってきている。現状の千松閣は必ずしも高齢者の今日的な価値観、ニーズに沿ったものとはなかなか言えず、同じ機能を持つ施設を新たに整備することは難しいと考えている。



閉館が決まった千松閣

令和6年能登半島地震の
復旧などの対応について



かたやま しゅんじろう
片山 瞬次郎
議員

一問一答



動画でチェック

◆小松市の液状化現象について

Q 下水道関係・浄化槽の被害状況について。

A 管路は105か所、下水道は3町内で被害があった。浄化槽は個人設置のため全体把握は難しい。

Q 液状化の宅地被害を抑制・防止事業について。

A 国、県においても個人宅地の地盤改良補助はない。住宅建設地のリスク判断材料としていろいろな情報を開示していく。

Q 小松市の二次避難者の受入やみなし仮設・入居被災者の状況は。

A 2月末時点で1,107名受け入れている。

Q 被災者と高齢者向けの地域サロンの交流状況は。

A 声かけにより交流の場がもたれている。

Q 災害ごみの受入と県の協議状況、対応は。

A まだ要請はないが、要請があれば市民生活に影響のない範囲で最大限の受入をしたい。

◆ひきこもり支援の孤独・孤立対策への強化について

Q ひきこもり相談支援の居場所の提供、伴走型専門スタッフとは。

A 社会福祉法人と連携し居場所づくりを推進する。社会福祉士等の有資格者が相談対応を行う。

◆中山間地でのドローンを活用した新スマート物流の状況は

Q 社会実装への進捗状況と課題は。

A まずは陸送を軌道にのせつつドローン配送を進めている。住民周知、着陸場所の協力、ドローン操縦者の育成が課題となっている。

◆「認定こども園だいいち」整備事業について

Q 土地の地盤状況と周辺の内水対策は。

A 地盤調査を行い設計に反映させる。計画が具体化した段階で、雨水対策を判断する。

Q 移転後に、認定こども園だいいちの跡地活用は。

A 民間事業者等への売却と宅地開発・分譲などを検討したい。

予算決算常任委員会総括質疑

会 派 自 民



東浩一 委員



動画でチェック

◆消防施設災害復旧費

Q 地震で被害のあった消防施設と活動状況について。

A 大きな被害があったのは南消防署庁舎だけ。被災地の消防支援は3月6日までで計66日間、延べ115名を派遣。

Q 消防団員入団への取組は。

A 防災士の会と消防団で意見交換の場を設けるなど行う。

◆建築行政指導費

Q 耐震補助制度について。

A 今回新規の上乗せ加算制度は補助率1/2、限度額100万円を補助するもの。

Q 補助対象期間の拡充は。

A 昭和56年5月以前の建築が対象。国や県の動向を注視していく。

◆強い農業ひとづくり支援費

Q 現状と今後について。

A 販路拡大は小松産のPR、生産者の所得向上、担い手育成

の効果があり、積極的に支援する。

Q クロスコンプライアンスへの取組について。

A 農林水産省が、令和9年度以降の実施を計画している。生産者への周知、必要性の理解、意識向上を図る。

◆尾小屋鉱山資料館周辺持続活性化事業費

Q 尾小屋マインロード完全復旧及び尾小屋鉱山資料館リニューアルについて。

A 令和10年、近代尾小屋鉱山の銅鉱脈発見から150年であり、その年を目途に、県や関係各所と調整し進めていく。



吉本慎太郎 委員



動画でチェック

◆敬老金等支給費について

Q 小松市敬老金条例の改正により、敬老金等支給費が減額されている。高齢者福祉施策のシンボルであり、長寿を祝い、敬老の意を表するこの手厚い制度を見直す必要はあるのか。再考を。

A 時代の変遷により高齢者を取り巻く状況が変化中、敬老金本来の趣旨を尊重することには変わりはない。しかし、歳出の見直しは必要であり、市民の皆さんから頂いている貴重な税金を財源として、政策展開を図っていきたい。



高野哲郎 委員



動画でチェック

◆自治体ライドシェア運行費

Q 本会議初日議決分の運行実績・反響は。

A 20件、延べ43名の利用。アンケート調査では高評価をいただいた。

Q 新年度分4,400万円の内訳は。

A アプリシステムの使用料等1,440万円など。

Q 登録されているドライバーの人数は。

A 登録者4名、登録手続中6名、応募者10名の計20名。

Q 小松市職員も講習を受ければドライバーとなれるそうだが、業務命令という形はないのか。

A 業務命令ということはない。

◆職員の働きがいのある職場に向けた取組

Q どんなどころに外部委託するのか。

A ハラスメント対策は、相談窓口の設置、ハラスメント調査等を行うことができる事業者に委託予定。



委託の必要性を考えた理由は。



多職種の多様なケースに公平公正、厳正に対処し、ハラスメントを排除するため。

小松志士の会



濱口淳也 委員



動画でチェック

◆戸籍情報管理システム運営費



管理システムの主な内容は。



令和6年3月に運用開始した広域交付に対応したものであり、戸籍の証明書が、本籍地以外の市区町村窓口で取得可能となった。これにより利便性が向上したものである。

◆産業振興支援費



DX推進伴走支援モデル事業としての予算で行う事は。



市内企業のDX推進を図るため、専門家による伴走型支援を行い、企業のDX化に向けた取組を後押しするもの。



宮西健吉 委員



動画でチェック

◆都市計画道路調査費について



新規整備路線として今江三谷線の未整備区間450mがある。これが整備されると外環状道路が完成する。小松基地から305号線、8号バイパスまでつながる。問題は踏切。今江町は6,000人の町であり、2040年ビジョンでは今江駅が計画されている。踏切をオーバー、アンダー、フラットどうするのか。今江校下の発展が本市の発展にもつながる。検討してほしい。



ビジョンにイメージがあるので、新駅のことも承知し

た上で、まずこの外環状道路を完成させたい。将来的なビジョンについては、鉄道事業者としっかり協議を重ねていくが、なかなか難しく、時間を要する。

自民党こまつ



吉村範明 委員



動画でチェック

◆高機能消防ポンプ車購入費について



ポンプ車の導入目的は。



時代とともに新たな化学車性能を有する高機能の消防ポンプ車の配備が必要となった。



性能と現行車両との差異は。



新たな性能として圧縮空気泡消火装置「キャプス」を搭載。消火能力の向上や早期鎮圧に有効で4輪駆動型。現場到着後の活動が迅速化する。



密集地火災の対応は。



密集地警防計画の見直しを図り、訓練の充実と最新の消防車両や資機材を整備していくとともに、官民一体となった防火防災対策も推進していく。



消防長が考えるこれからの消防体制は。



消防訓練の精度を高め関係機関と広域的な連携を強化、迅速かつ的確に任務を遂行できる強力な消防体制を構築していく。



川崎順次 委員



動画でチェック

◆市民センター改修費



大ホールの改修内容は。



舞台照明のLED化、天井の軽量化による耐震化等。

Q 老人福祉施設はつつセンターの改修は。

A バリアフリー化等、老人福祉施設での必要な機能をする改修を行ってきた。

Q 老人クラブの会員の方から手紙を頂いた。今回の千松閣の廃止に伴う老人クラブ連合会から市議会に提出された請願について、三役会で決定されたもので大変残念だ、地滑りの影響等もあり使用できなくなったが再築を請願することは性急過ぎる、再築には多額の費用が必要で子や孫の世代に負担させたくないと書かれていた。代替施設としてはつつセンターやせせらぎの郷の整備を。

A 両施設は、千松閣とおおむね同様の機能を既に有しており、千松閣が休止以降、一定程度、

代替施設として利用が進んでいると考えている。また、民間にも類似サービスが充実してきており、官民を含めた既存施設の有効活用を図っていくことが一番よいと判断している。娯楽機能など、必要に応じて機能の付加を検討していきたい。

◆中消防署西出張所整備費

Q 津波にも安心できる消防署であってほしい。

A 津波警報が発令された際、隊員の安全と車両や資機材を確保した上で、管轄区域を中心として救助活動や消火活動を展開するとともに、地元分団と連携し、津波の警戒パトロールや避難誘導等の活動を行う。

無 会 派



橋本米子 委員



動画でチェック

◆令和6年度小松市国民健康保険事業特別会計予算

Q 賦課限度額102万円から104万円になる対象者の所得と世帯数は。

A 約1,000万円の高所得世帯で、約130世帯、全体の1%程度が賦課限度額に達する見込み。

◆後期高齢者医療特別会計予算

Q 令和6・7年度の保険料の引上げが大きい。平均保険料額は。

A 1人当たりの平均保険料額は年額6,873円増加となる。

常任委員会 審査報告

予算決算常任委員会

議案第1号 令和5年度小松市一般会計補正予算(第9号)について

■自治体ライドシェア運行費(3,600千円)

夜間のタクシードライバー不足を補完するため、一般ドライバーが有償で顧客を送迎する自家用有償旅客運送を全国に先駆けて実施するもので、アプリ改修やコールセンター運営委託に係る費用です。市が事業主体となり、運行管理や車両管理は小松地区タクシー協会へ依頼する予定とのことです。

小松市として初めての取組であり、今後、事業の経過を注視していく必要があることから、試運行の結果や課題について報告を求めました。

議案第2号 令和6年度小松市一般会計予算について

■防災体制強化費(28,000千円)

避難所の非常食や衛生用品の定期更新、土砂災害ハザードマップの更新、こまつ防災アプリの使用料、防災土養成講座受講料の負担金、コミュニティ助成事業に係る補助金に係る費用です。

防災士について、災害時に体系的な対応ができていない地域もあるため、組織化に向けた支援の検討を求めました。また、避難所空調の早急な整備や備蓄品の適正な配置、こまつ防災アプリの更なる機能アップ等の検討を求めました。

■自治体ライドシェア運行費(44,000千円)

小松市ライドシェア運行にあたり、AI配車システム使用料、運行管理・

車両整備、ドライバー研修、マップ・決済システム使用料、コールセンター委託、ドライバー管理業務等に係る費用です。

初日議決時の説明から変更となった内容やドライバー募集などについて、議会への事前説明が不十分であるとの意見がありました。また、今後の公用車の使用を含め、その都度、委員会への報告を求めました。

■医療的ケア児保育支援費(22,000千円)

保育所等における医療的ケア児の受け入れ体制の整備に係る費用です。

医療的ケア児の受入施設は増加していますが、園バスでの送迎を行うなど保護者に寄り添った支援を求めました。

■敬老金等支給費(13,800千円)

88歳と100歳の高齢者に対する敬老金及び80歳の高齢者への記念品の支給費です。

一部の委員から、敬老金条例が改正された場合に対象外となる、99歳への各5万円と101歳以上への各3万円の支給額が、事業費に予算計上されていないことに反対する意見がありました。

■こども預かりサービスステーション費(16,000千円)

出勤時に子供を預け、帰宅時にお迎えできる「子ども預かりサービスステーション」をカブッキーランド内に新設する費用です。

■民生児童委員活動費(19,900千円)

民生委員児童委員活動及び活動団体運営に係る費用です。

民生委員児童委員の成り手が不足していることから、活動内容の明確化や待遇面の改善等対策、福祉推進委員の充実など、さらなる民生委員のサポート体制の強化を求めました。

■公衆浴場活性化推進費(9,600千円)

家族ふれあい入浴事業補助金、湯ったりシニアふれあい入浴事業委託等に係る費用です。

湯ったりシニアふれあい入浴事業について、対象の浴場が増えるような働きかけを求めました。

■小学校校舎等改修費(226,150千円)

能美小学校・国府小学校・木場小学校の空調復旧等に係る費用です。

外部電源やガスヒートポンプなど災害に強い学校づくりを検討していくよう求めました。

■学校給食運営費(304,651千円)

市内小中学校、義務教育学校29校の学校給食調理業務の外部委託に係る費用です。

一部の委員から、学校給食は公教育の一環であることから、民間委託することに反対する意見がありました。

■日本遺産振興費(10,030千円)

新年度新たに実施する那谷寺の国名勝や重要文化財建造物調査費用のほか、九谷焼ガイドの育成、教育コンテンツの造成費、構成文化財の環境整備、拠点地域の活動支援などにより、日本遺産の知名度向上や地域の活性化を図る費用です。

那谷寺の調査成果については、観光資源としても活用してほしいとの意見がありました。

■修景公園管理費(110,385千円)

都市公園85箇所、その他公園101箇所における維持管理費等です。

問屋第一公園ドッグラン整備工事については、ドッグラン施設に併せ、イベント開催や人流創出に期待するものであり、地理的条件やニーズに合わせた良い公園となるよう整備してほしいとの意見がありました。

■強い農業ひとづくり支援費(8,300千円)

中山間地域の農業機械の更新や、スマート農業機械の購入支援費等です。

新商品の開発や販路拡大について、今後も積極的に支援してほしいとの意見がありました。

議案第8号 令和6年度小松市水道事業会計予算について

■投資有価証券の取得(100,000千円)

積立金の効率的な運用を図るため、これまでの定期預金での運用に加え、新たに国債等を購入するものです。

地方公共団体の資金運用先は、慎重に選定してほしいという意見や、積立金の残高、政策金利や債券の利回り等の状況を考慮した上で投資額の増額について検討してほしいという要望がありました。

議案第9号 令和6年度小松市下水道事業会計予算について

■未普及解消費(490,100千円)

事業認可や管きょ実施設計に係る委託料、工事費、下水道工事に係る支障移設補償費です。

その他の未普及地域を考慮し、出来るだけ事業実施のペースを早めていくことを検討するよう求めました。

■浸水対策費(502,000千円)

石橋川排水区導水路工事、雨水管理総合計画、内水ハザードマップ作成業務等です。

内水ハザードマップは、浸水による家や道路などの被害を減災するため、出来るだけ早く作成してほしいとの意見がありました。

議案第10号 令和6年度国民健康保険小松市民病院事業会計予算について

■職員の働きがいのある職場に向けた取組(15,000千円)

働きがいのある職場に向けたハラスメント対策業務、人事評価制度の構築や研修等実施に係る委託料です。

外部窓口の設置により職員が不利益を被らない働きやすい職場環境と専門家に安心して相談できる体制を構築していくとのことです。

総務企画常任委員会

■議案第40号専決処分の承認を求めることについて中 令和5年度専決第17号損害賠償の額を定めることについて

市道及び町道において、小松市防犯交通推進隊連合会隊員が白線ペンキを塗っていたところ、ペンキが乾かない間に相手方の車両がその上を通行し、当該車両にペンキが付着し損害を与えたものであり、相手方2名への合計392,931円の損害賠償額を定めるものです。

今後は速乾性のあるペンキの使用や注意喚起の徹底など再発防止の周知を行ったとのことです。

道路のことであり警察との連携が必要ではないかとの意見があり、今後、隊員の活動に支障が出るこ

とのないよう、警察と連携を密にして方法を協議し、推進隊へ周知していくとのことです。

■未来型図書館の整備に向けた基本的な考え方について

未来型図書館の整備に向けて、事業手法として、整備・運営を官民連携事業で実施する場合はDBO方式、またはPFI手法のBTO方式が有力と想定しているとのことです。

施設整備費の概算額としては約68億円と想定、Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）を見据えた先進建築物、ZEB Ready（ゼブ・レディ）の対策を追加実施した場合は約75億円と想定、管理運営費として年約2億3千万円と想定しており、今後基本計画において詳細に検討していくとのことです。

駐車場については、不足が想定されることから、既存市役所駐車場に立体駐車場の整備を検討していくとのことです。採算性を含めた運営が課題とのことです。車社会であることや周辺の駐車場は無料が多いことなどを踏まえ、料金・サービス体系のあり方について、ほかとのバランスを考慮して充分検討するよう求める意見がありました。

また、事業費や補助金など予算面は当然大切な視点ではありますが、その枠組みにとらわれすぎて中途半端な施設となることがないよう、良い施設を創るよう期待する意見がありました。

福祉文教常任委員会

■議案第25号 小松市犯罪被害者等支援条例について

本条例は、犯罪被害者等の支援に関し市と市民の責務を明確化し、法的な根拠を定めることにより、支援の取組や関係機関等との連携をしやすくし、市民が安心安全に暮らし続けるまちづくりに寄与することが目的です。

2次的被害を防ぐため、市民にも犯罪被害者を守る配慮の必要性について周知し、理解を求めるようにとの意見がありました。

■議案第26号 小松市敬老金条例の一部を改正する条例について

敬老金条例は、長寿を祝い、敬老の意を表することを目的としたものです。現行条例において、88歳、99歳、100歳、101歳以上と定めている支給対象者について、改正条例では88歳、100歳とし、長寿の節目を祝う持続可能な事業にしていくとのことです。

まず、本案に賛成の理由として、さらなる超高齢社会に向け、様々な課題があり、高齢者施策を全体的に未来の展望を予測しながら考えていくことが必要との意見がありました。

また、令和8年度まで基金を活用して介護保険料を据え置くこととであり、高齢者福祉施策を全体的に考えると見直しが必要であり、財政状態が改善されてから再び制度改正を検討することもできるとの意見がありました。

さらに、88歳以上の対象者数は年々増加しており、今後もさらなる増加が予想されるので、65歳以上の介護に予算を振り替えていくことも必要、祝い金の配布ではなく介護予防に注力していくべき、一部改正後も県内トップクラスの手厚い内容であるとの意見がありました。

一方、反対の理由としては、高齢者施策として、生きがいづくりは大きな仕事であり、本事業は、長寿の方すべてに等しく祝い金を支給する高齢者全員の生きがいを作る意義ある制度であり、100歳以上の高齢者の長生きを地域で応援したい、これまでも他市と比べて手厚い内容だからこそ大切にしたい、子育てだけではなく、高齢者施策もダントツの小松でありたいとの意見がありました。

また、高齢化の進展や高齢者施策全体を考慮して改正に至った経緯については十分に理解するが、他に見直す事業があるのではないかと意見がありました。

賛成と反対の意見が多く出される中、軽々に判断できないという理由から、6月定例会を目途に継続審査を求める意見がありました。

これらの意見を踏まえ、委員会として、本議案を賛成多数で継続審査といたしました。

※本条例について、宮西議員、川崎議員から委員長報告に対する質疑がありました。

■議案第27号 小松市立老人福祉センター条例を廃止する条例について

千松閣は、施設・設備全体の老朽化や地盤リスク、利用者の減少等を踏まえ総合的に検討し、今年度末をもって閉館とするとのことです。

■議案第29号 小松市介護保険条例の一部を改正する条例について

介護保険法施行令の改正に伴う一部改正です。

本市では、第1号被保険者の介護保険料を据え置きとし、改正施行令による、低所得者保険料に対する公費軽減割合縮小等の影響を受けないよう、一部改正をするとのことです。

■請願第1号 老人福祉センター千松閣営業中止に伴う代替施設設置の請願

本請願は、老人福祉センター千松閣閉館との報道を受け、小松市老人クラブ連合会より提出されたものであり、老人福祉センターの代替施設の設置を求めるものです。

当施設は高齢者の貴重な憩いの場であり、高齢者の活動の発信の場所であったとのことで、今後ますます増加する高齢者のコミュニケーションの場を確保するため施設の開設を請願するとのことです。

委員から施設新設は浴場等の民業圧迫につながり、公共施設マネジメントの観点から類似施設を代替とし修繕及び活用していくことが望ましいとの理由で採択に反対する意見がありました。

また、請願については、請願者の思いを市長に伝えることが本意であって、新設か修繕かという内容は、採択し、市長に提出した後話し合っていくことであると採択に賛成する意見がありました。

全会一致での採択が望ましい、請願者に請願趣旨を確認したいとの理由から継続審査を求める意見がありました。

この案件について、議論を重ね、慎重なる審査を行いました結果、賛成多数で採択すべきと決した次第です。

経済建設常任委員会

■議案第32号 小松市営住宅条例の一部を改正する条例について

概要として、1つ目は市営住宅として民間賃貸住宅の借上げを行い、公営住宅の借上げ住宅として適宜提供できるよう改正を行うものです。2つ目として、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律の一部を改正する法律」(令和6年4月1日施行)に伴う改正を行うものです。

現行条例では、市営住宅の名称、位置等が別表で定められており、今後借上げ住宅を活用していくにあたって、借上げ市営住宅を入居希望者へ適宜供給できるよう、借

上げ住宅の名称、位置については規則で定めるといふ、条例改正です。

現在の市営住宅の老朽化による取壊しなどで、引っ越しを余儀なくされる場合には、まずは既存の市営住宅を案内することや、その方の生活の形に寄り添い、住居を案内するようにしてほしいとの意見がありました。

■特定地域づくり事業協同組合制度について

令和2年6月に創設された国の制度であり、人口が急減している地域の人口流出の抑制を図ることを目的としている。人口が急減している地域の事業者で事業協同組合を設立し、組合員となった地域

の事業者が、季節により繁忙時期が異なる仕事を組み合わせ、組合が地域の若者や地域外からの移住希望者等を正規組合職員として雇用するものです。市と国は、地域の人口流出の抑制に取り組んでいる特定地域づくり事業協同組合に対し、財政運営の支援を行うものです。対象地域については、松東、那谷校下を検討しているとのこと

です。
うまく制度を運用し、地域の若者や移住希望者等を雇用することで、人口急減、担い手不足等の抑制につながるよう、いろいろな施策も交えながら良い成功事例となるよう進めてほしいとの意見がありました。

特別委員会 調査報告

小松基地・空港対策特別委員会

■在日米軍再編に係る訓練移転について

現時点で小松基地における訓練計画はないとのことですが、訓練計画については、速やかに情報提供するよう求めました。

■航空自衛隊小松基地に関する令和6年度予算案の主要事業について

防衛省の令和6年度予算案では、小松基地として2個目のF-35A飛行隊分の8機の取得に係る経費約1,120億円を計上しており、小松基地には令和7年度に4機、令和8年度に8機、令和9年度に8機、令和10年度に8機のF-35A戦闘機を配備する予定とのこと

です。
主な施設整備として、F-35A操縦者訓練施設等の整備、F-15能力向上型受入施設の整備等に係る経費として約76億円を計上し、これらの事業を含め、小松基地における施設整備に係る経費は、全体で約122億円を計上しているとのこと

令和7年度からF-35Aが配備予定とのことですが、F-35A配備により諸外国との訓練が増えるこ

となどが予想されることを踏まえ、配備前の今から、基地関係の交付金や補助金の増額を防衛省に対して要望していくよう求める意見がありました。

■令和6年度空港・基地政策課事業の概要について

空港・基地政策課が所管する各種施策について説明があり、主なものは、羽田便を利用する首都圏からの旅行商品の造成などに対して支援を行うための小松空港協議会への負担金、騒音区域105町内で組織する小松飛行場周辺整備協議会への交付金、騒音区域内の個人住宅新築に対する助成などあります。

■航空プラザについて

2月末までの今年度来館者数は約18万人、昨年に比べ約8%増加とのことであり、年間を通じて親子で楽しめる催しを多数行っており、多くの方に参加いただき好評を得ているとのこと

です。
また、前政府専用機貴賓室の展示については、令和6年までの貸付期限とのことですが、大変貴重な資料であり、引き続き展示できるよう働きかけていくとのこと

公共施設マネジメント検討特別委員会

■市営本江町住宅の跡地活用について

昭和46年建設の市営本江町住宅の現況と跡地活用について説明がありました。市営本江町住宅は築52年が経過し、一部で屋根瓦が落下するなど著しく老朽化が進んでおり、令和3年10月からは全18戸すべてが空き住戸となっている状況

です。
今後の活用について、市営本江町住宅の立地は、幹線道路に近く交通アクセスが良いこと、近隣にこども園、小学校、大型商業施設や医療機関などがあり、また木場潟公園も近く子育て環境として良好なこと、既存住宅を解体し、子育て世帯向け市営戸建て賃貸住宅と分譲宅地を、民間の技術力やノウハウを活用したPFI手法の活用も検討し、整備していくとのこと

です。
PFI手法を活用した市営住宅等の整備は、これまでに川辺町や木曽町で実施しており、若い方の転居や子供の増加により、まちに活気ができ地元から大変喜ばれているとのこと

3月定例会の議決結果

■全会一致で議決された議案

	議案名	議決結果
予算案 (16件)	第 3 号 令和6年度小松市国民健康保険事業特別会計予算	可決
	第 4 号 令和6年度小松市介護保険事業特別会計予算	//
	第 5 号 令和6年度小松市公債管理特別会計予算	//
	第 6 号 令和6年度小松市産業団地事業特別会計予算	//
	第 8 号 令和6年度小松市水道事業会計予算	//
	第 9 号 令和6年度小松市下水道事業会計予算	//
	第10号 令和6年度国民健康保険小松市民病院事業会計予算	//
	第11号 令和5年度小松市一般会計補正予算(第10号)	//
	第12号 令和5年度小松市国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	//
	第13号 令和5年度小松市介護保険事業特別会計補正予算(第3号)	//
	第14号 令和5年度小松市公債管理特別会計補正予算(第2号)	//
	第15号 令和5年度小松市産業団地事業特別会計補正予算(第2号)	//
	第16号 令和5年度小松市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)	//
	第17号 令和5年度小松市水道事業会計補正予算(第4号)	//
	第18号 令和5年度小松市下水道事業会計補正予算(第3号)	//
	第19号 令和5年度国民健康保険小松市民病院事業会計補正予算(第2号)	//
条例案 (14件)	第20号 小松市部設置条例の一部を改正する条例について	//
	第21号 小松市公告式条例の一部を改正する条例について	//
	第22号 小松市町界町名整理審議会条例の一部を改正する条例について	//
	第23号 小松市会計年度任用職員の給与等に関する条例等の一部を改正する条例について	//
	第24号 小松市手数料条例の一部を改正する条例について	//
	第25号 小松市犯罪被害者等支援条例について	//
	第27号 小松市立老人福祉センター条例を廃止する条例について	//
	第28号 小松市国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	//
	第29号 小松市介護保険条例の一部を改正する条例について	//
	第30号 小松市地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律第9条第1項に基づく準則を定める条例の一部を改正する条例について	//
	第31号 小松市漁港管理条例の一部を改正する条例について	//
	第32号 小松市営住宅条例の一部を改正する条例について	//
	第33号 小松市体育施設条例等の一部を改正する条例について	//
	第34号 適用対象の消滅等による条例の廃止に関する条例について	//
その他議案 (8件)	第35号 財産の処分について	//
	第36号 財産の処分について	//
	第37号 財産の処分について	//
	第38号 指定管理者の指定の変更について	//
	第39号 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について	//
	第40号 専決処分の承認を求めることについて	承認
	第41号 教育委員会教育長の任命について	同意
	第42号 固定資産評価審査委員会委員の選任について	//
議員提出議案 (5件)	第 1 号 小松市議会委員会条例の一部を改正する条例について	可決
	第 2 号 令和6年能登半島地震からの創造的復興に関する決議	//
	第 3 号 令和6年能登半島地震の災害復興支援を求める意見書	//
	第 4 号 保育士の配置基準の見直し及び処遇改善を求める意見書	//
	第 5 号 災害救助法における福祉の位置付けの明確化を求める意見書	//
その他案件 (1件)	議員の派遣について(姉妹都市 ベルギー・ビルボード市代表訪問団)	//

■賛否が分かれた議案

○は賛成 ×は反対 退は退席 欠は欠席

	議 案 名	会派自民										小松志士の会		自民党こまつ		無党派				議決結果			
		灰田 昌典	表 靖二	高野 哲郎	吉本慎太郎	梅田 利和	南藤 陽一	岡山 晃宏	村中 洋	斎藤 和美	吉栗 文悟	宮西 健吉	中西 肇	濱口 淳也	木村 賢治	川崎 順次	吉村 範明	深田 博智	橋本 米子		片山瞬次郎	木下 裕介	東 浩一
予算案(3件)	第 1 号 令和5年度小松市一般会計補正予算(第9号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	第 2 号 令和6年度小松市一般会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
	第 7 号 令和6年度小松市後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	可決
条例案(1件)	第26号 小松市敬老金条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○	継続 審査
請願(1件)	第 1 号 老人福祉センター千松閣営業中止に伴う代替施設設置の請願	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○	採択

※新田寛之議長、東浩一副議長は小松市議会運営規約第4条に基づき、会派に所属していません。新田寛之議長は採決には加わりません。

議会の活動を紹介します

北陸新幹線 金沢―敦賀間試乗会



開催日 令和6年2月4日(日)

総務委員会として試乗会に招かれ、小松駅から新幹線に乗車。この時期には珍しく、白山が透き通るほどに晴れ、試乗会に花が添えられました。新幹線の見どころは何よりも木場潟を望む美しい遠景。試乗会に参加された皆さんが身を乗り出してその絶景を楽しんでいました。心配されていた敦賀駅のサンダーバードへの乗換えに関しては委員からの不満の声もなく、開業が楽しみになる試乗会になりました。

校下女性協議会との意見交換会



開催日 令和6年2月4日(日)

第25回「議員さんと語る会」が小松市校下女性協議会主催で開催されました。副議長と新人議員3名が参加し、訪問看護の問題、高齢者の免許返納、そして能登半島地震からの女性目線での気づきについて、それぞれのテーマで意見交換が行われました。会員からは、今後の市政にとって重要な内容や面白いアイデアが提案され、活発な議論が繰り広げられました。参加者から寄せられた意見は、今後の市政に生かしていきたいと思います。

二大交通拠点をつなぐ自動運転バス



開催日 令和6年3月3日(日)

北陸新幹線小松駅と小松空港の間を結ぶ“レール&フライト”の北陸エリアの交通の結節点としての自動運転バスが路線バスとして通年運行開始となります。これまで議会でも多くの質問・議論がなされ、令和2年度からの実証実験を経て、プロジェクトの導入・運行に向けた推進体制が図られました。試乗して、小松市のまちづくりの展望と未来型交通システム的一端を体感しました。

令和6年度公立小松大学・大学院入学式



開催日 令和6年4月2日(火)

公立小松大学・大学院入学宣誓式が行われ、学科生249名、大学院生31名が新たな大学生活の一步を踏み出しました。緊張している様子や期待に胸を膨らませている様子など学生の表情も様々でしたが、それぞれの目標に向かって勉学に励んで頂きたいのはもちろんの事、特に市外から入学した学生の皆さんには小松を第二の故郷と思って頂き、若いパワーで小松を元気に盛り上げて頂きたいと期待いたします。

行政視察報告

議会運営委員会

視察先 東京都

期間 令和6年3月25日(月)～26日(火)

視察項目

【衆議院議員会館】通年議会、オンライン議会について

【府中市役所】議会運営について



6月 定例会のお知らせ 次の定例会は6月10日から6月27日までの18日間です。

6月10日(月)	10:00～	24日(月)	9:30～
本会議	開会・市長説明	委員会	特別委員会
18日(火)～20日(木)	9:30～	27日(木)	13:30～
本会議	一般質問	本会議	委員長報告・採決・閉会
21日(金)	9:30～		
委員会	各常任委員会(分科会)		

※詳細は議会ホームページをご覧ください。

小松市イメージキャラクター
カブッキー**小松市立高等学校 芸術コース美術専攻の皆さまありがとうございました**

小松市立高等学校芸術コースの皆さまには、表紙掲載の絵画作品を、2019年8月(No. 192)から計19回にわたりご提供いただきました。

**小松大谷高等学校 写真部の皆さまよろしくお願ひいたします**

今年度からは、小松大谷高等学校写真部の皆さまに、素敵な写真で表紙を飾っていただくこととなりました。

議会だより編集委員会では、本誌をととして、議員の活動や議会が市民の皆様に身近なものとなるよう努めてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

議会だより編集委員会委員一同

読者の声をお寄せください

議会だよりをお読みいただいたご感想をお聞かせください。

右記QRコードを読み込んでいただき、「氏名」「連絡先」等必要事項を入力の上、お送りください。

**サポートネット**日時●5月11日(土)・6月15日(土)・7月20日(土)
9時～11時30分**専門家による無料相談会**

会場●小松商工会議所

問い合わせ先: 担当 竹内 TEL 0761-22-9990



不動産鑑定士 弁護士 中小企業診断士 社会保険労務士 司法書士 行政書士 税理士 行政書士 弁護士 土地家屋調査士 行政書士

澤矢 豊伸 TEL0761-21-1122 杉本 昌之 TEL0761-24-3633 竹内 広幸 TEL0761-22-9990 田中 一生 TEL0761-48-7040 谷口 勇一 TEL0761-76-5503 中西 祐一 TEL076-256-5413 山崎 豊 TEL0761-20-3175

- ◆法律
- ◆債権回収
- ◆多重債務
- ◆完済過払
- ◆税金
- ◆登記
- ◆不動産評価
- ◆人事・給与
- ◆会社設立
- ◆相続
- ◆事業承継
- ◆農地転用・開発行為
- ◆事業計画
- ◆公的年金 等の

ご相談をお気軽に【秘密厳守】
私たちが相談に応じます。